

## 観光行動の変遷と観光活性化—飛騨高山を事例として—

吉田 貴利\*・片柳 澄明\*\*・和田 章仁\*\*\*

### Change and sightseeing activation of Tourism - The Case of Takayama -

Takatoshi Yoshida , Sumiaki Katayanagi , Akihito Wada

In the city where there is historic row of houses along a city street of the Japanese tradition, many tourists come from the inside and outside the country. However, in late years the consciousness of the tourist shows a change for a sightseeing tour.

Keywords: 観光交通、観光活性化、高山

#### 1. はじめに

日本の伝統的、歴史的な町並みがある都市には、多くの観光客が国内外から訪れている。しかし、近年、観光旅行に対して観光客の意識に変化があらわれてきている。特に、観光旅行は『安・近・短』の傾向が強まっていると世間では言われている。また観光地を有している都市では、観光地の賑わいの衰退や観光情報の提供不足によって、観光客が減少している。そのため、観光地を全国にPRしていかなければならないことが課題となっている。

そこで、本研究では、岐阜県高山市に訪れている観光客の行動変化を把握するため、高山市内に公共交通機関及び自動車等で来訪している観光客を対象にアンケート調査を実施し、訪れた観光地、交通機関選択の理由、観光客の高山での行動等の把握により、観光行動の変容を明らかにすることを目的とする。また、JR 東海が発売している割引切符の認知度を把握することによって、高山市における観光活性化に向けての方策についても検討するものである。

#### 2. 調査概要

調査は JR 高山駅前広場及び隣接する高速バスターミナルにおいて、公共交通機関を利用して訪れている観光客を対象に、高山市内の3箇所の駐車場（神明駐車場、えび坂駐車場、空町駐車場）において、自動車を利用して訪れている観光客を対象に、アンケート調査票を手渡し配布し、回収は郵送とした。調査概要は次のとおりである。

平成20年の調査日は、9月26日（金）、27日（土）、28日（日）の3日間である。平成21年の調査日は9月18日（金）、19日（土）の2日間である。自動車のみ20日（日）の3日間行っ

---

\*建設工学専攻大学院生    \*\*いであ株式会社    \*\*\*土木環境工学科

表－1 公共交通機関の調査結果の概要

	配布数	回収数	有効回収数	JR利用票数
平成20年	400	233	231 (57.75%)	164 (71.0%)
平成21年	400	211	191 (47.8%)	158 (82.7%)
平成22年	260	141	140 (53.8%)	117 (83.6%)

表－2 自動車の調査結果の概要

	配布数	回収数	有効回収数
平成20年	400	214	211 (52.8%)
平成21年	400	149	149 (49.7%)
平成22年	209	133	130 (62.2%)

表－3 調査年別 JR 利用者の利用交通機関

	JRのみ	JRと高速バス	JRとその他	計
平成21年	103 (65.6%)	19 (12.1%)	35 (22.3%)	157 (100%)
平成22年	61 (53.0%)	2 (1.8%)	52 (45.2%)	115 (100%)

注) 不明を除いて集計

表－4 調査年別自動車利用者の自動車の種類

	自家用車	その他	計
平成20年	189 (93.6%)	13 (6.4%)	202 (100%)
平成21年	144 (97.3%)	4 (2.7%)	148 (100%)
平成22年	125 (96.2%)	5 (3.8%)	130 (100%)

注) 不明を除いて集計

た。平成22年の調査日は、10月1日(金)、2日(土)の2日間である。

調査内容は、個人属性・旅行形態・旅行全日程・滞在時間等である。また、公共交通機関の調査結果の概要を示したものが表－1、自動車の調査結果の概要を示したものが表－2である。

### 3. 観光行動の変遷

#### (1) 観光客が利用した交通機関

調査年別の観光客の交通機関別に示したものが表－3、表－4である。公共交通機関が表－3、自動車が表－4である。公共交通機関では、平成21年、平成22年とも、『JRのみ』を利用して高山市に來訪している割合が高いことが分かる。ところが、平成22年では『JRのみ』の割合が減少し、『JRとその他』の割合が増加している。また、『JRと高速バス』の割合が急激に減少している。特に、『JRとその他』の割合が増加していることについては、路線バスを利用している観光客が増えたためと考えられる。

自動車では、3ヵ年とも自家用車を利用して高山市に來訪していることが分かる。

#### (2) 観光客の居住地

調査年別の観光客の主な居住地を示したものが図－1、図－2である。公共交通機関が図－1、自動車が図－2である。公共交通機関では、3ヵ年とも、近隣である『東海・北陸』、『近畿』から來訪している観光客の割合が高い。しかし、遠方である『関東・甲信越』から來訪している観光客の割合が年々減少してきていることが分かる。

自動車では、3ヵ年とも、『東海・北陸』から來訪している観光客の割合が高いことが分かる。これについては、近年、開通した東海北陸自動車道の影響が大きいと考えられる。

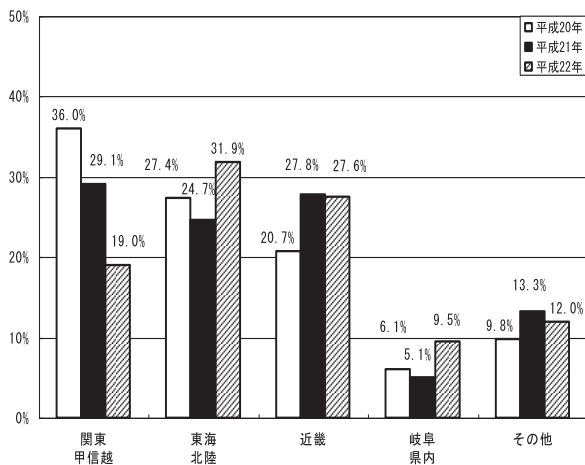
#### (3) 公共交通機関利用観光客の旅行全日程と滞在時間の比較

調査年別の観光客の旅行全日程を示したものが図－3、調査年別の観光客の高山での滞在時間を

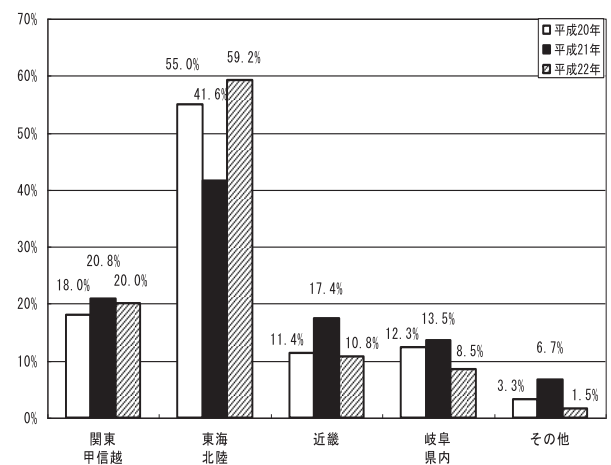
示したものが図－4 である。旅行全日程をみてみると、平成 20 年と平成 22 年とも旅行全日程が『1 泊 2 日』の割合が高い。また、平成 21 年では旅行全日程が『1 泊 2 日』と『2 泊 3 日』の割合が高い。高山での滞在時間をみてみると、平成 20 年では『1 泊 2 日』の割合が高い。平成 21 年では『1 泊 2 日』と『2 泊 3 日以上』の割合が高い。そして、平成 22 年では『半日程度』と『1 泊 2 日』の割合が高くなっている。このことから、観光旅行の全日程は 3 ヶ年ともあまり変化はしていないが、高山での滞在時間は短くなっている。

#### （４）観光客の立ち寄った観光地

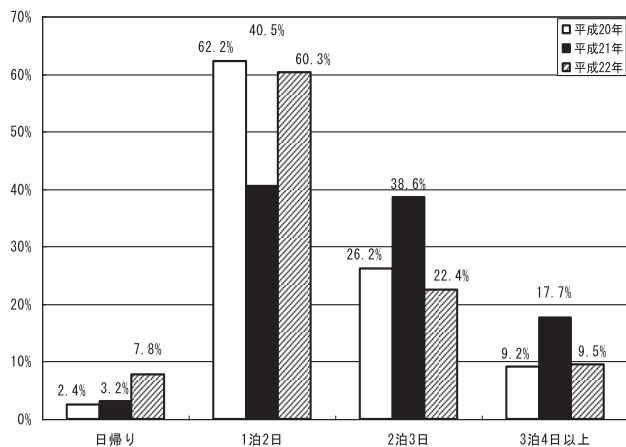
調査年別の観光客が立ち寄った観光地を示したものが図－5、図－6 である。公共交通機関が図－5、自動車図－6 である。平成 20 年の調査では『五箇山』を項目に入れていなかったため、図－5、図－6 には示されていない。また、公共交通機関では『白骨温泉』、『御嶽山』を訪れている観光客がいなかったため図－5 には示されていない。公共交通機関利用者、自動車利用者ともに、高山を主にして、『奥飛騨温泉郷』、『下呂温泉』の 2 つの観光地は、3 ヶ年とも観光客が毎年訪れている。しかし、公共交通機関においては、『飛騨古川』、『白川郷』の 2 つの観光地は、年々減少している。



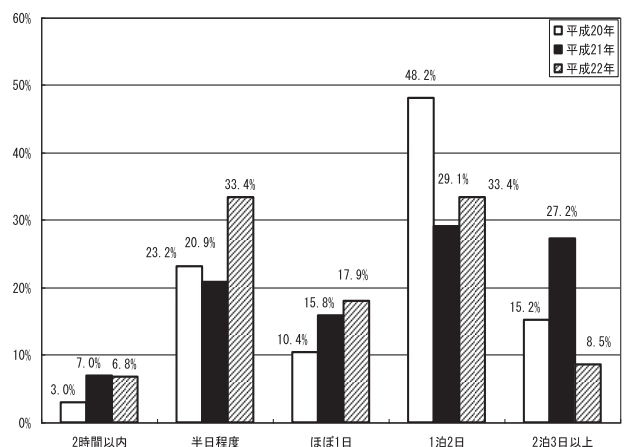
図－1 調査年別公共交通機関の主な居住地



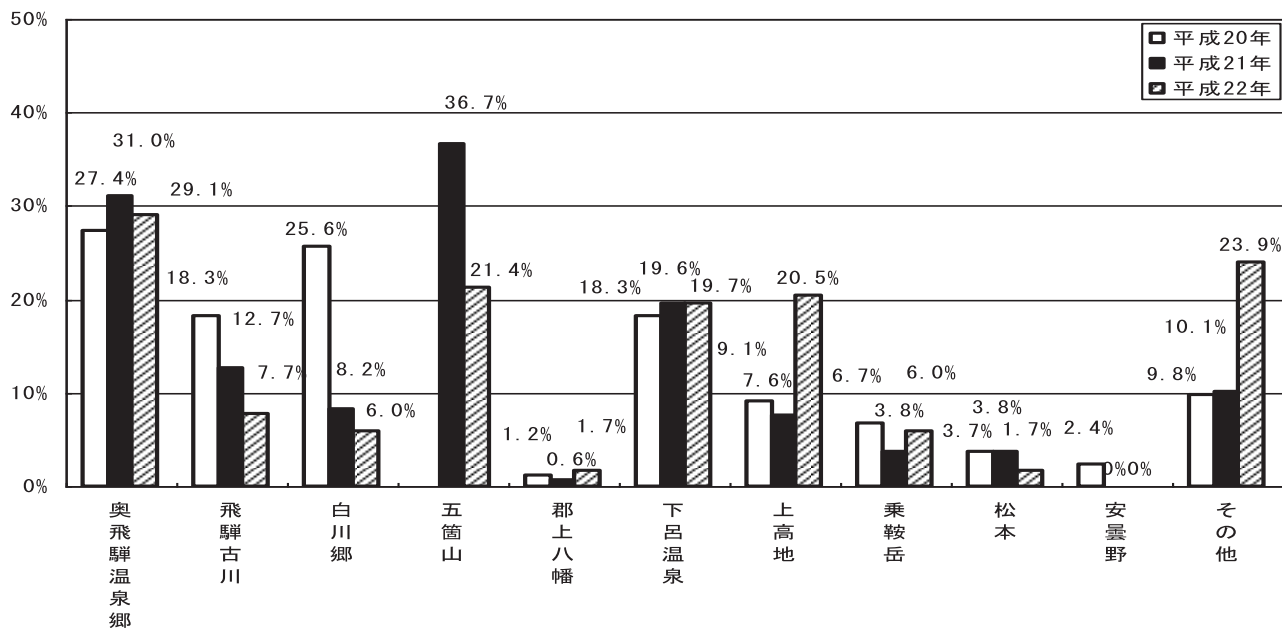
図－2 調査年別自動車の主な居住地



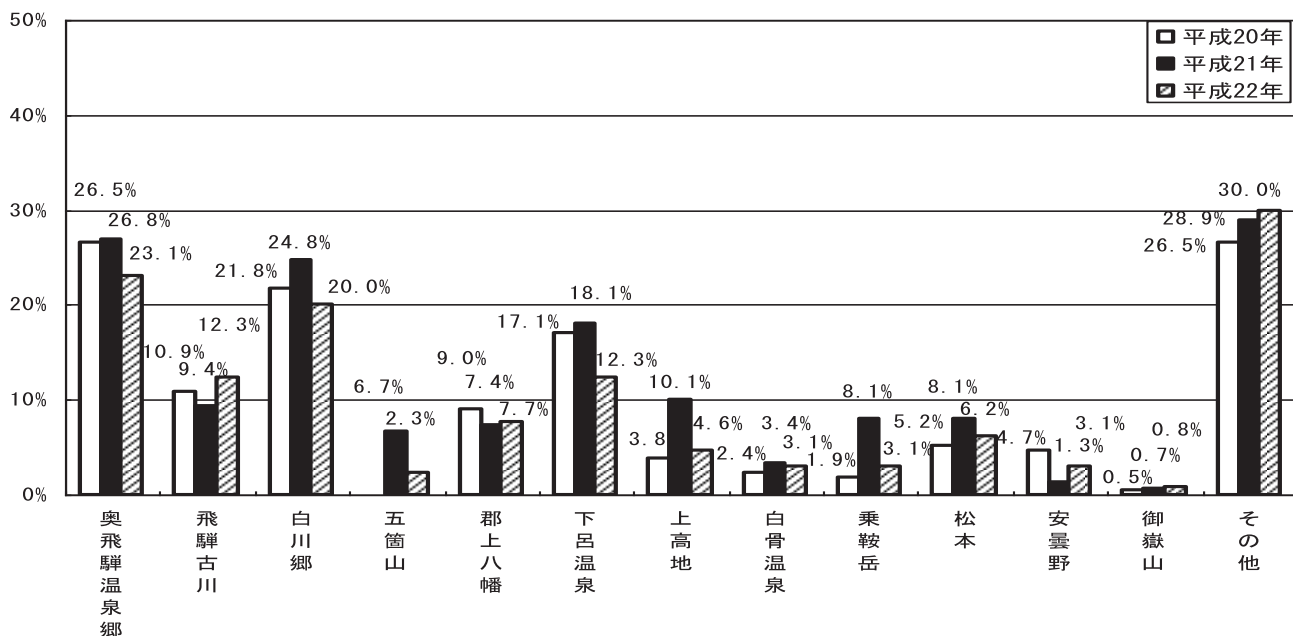
図－3 調査年別公共交通機関利用者の旅行全日程



図－4 調査年別公共交通機関利用者の滞在時間



図－5 調査年別公共交通機関利用者の立ち寄り地



図－6 調査年別自動車利用者の立ち寄り地

#### (5) 交通機関選択の理由

調査年別交通機関選択の理由を示したものが図－7、図－8 である。公共交通機関が図－7、自動車が図－8 である。公共交通機関利用者の選択理由をみると、『出発・到着の時刻が正確』の項目は、3 ヶ年とも高い割合となっている。また、『交通事故の心配がなく、安全』、『移動中はリラックスができ、お酒が飲める』の項目も、公共交通機関の長所であるため、大きな変化がみられなかった。

自動車利用者の選択理由をみると、『出発・到着時間が自由』の項目は3ヵ年とも高い割合となっている。また、『目的地での観光移動が便利』の項目も、自動車の長所であるため、大きな変化がみられなかった。

交通機関選択の理由の中で、特に興味深い項目は『経済的である』である。『経済的である』を調査年別・交通機関別に示したものが図-9である。公共交通機関利用者の割合は、年々減少している。このことについては、近年、開通した東海北陸自動車道による多くの高速路線バスの運行によって、『JRのみ』で訪れている観光客が減少したことが考えられる。

自動車利用者の割合は、平成21年に増加して、平成22年に減少している。このことについては、ETC割引が関係しているものと考えられる。

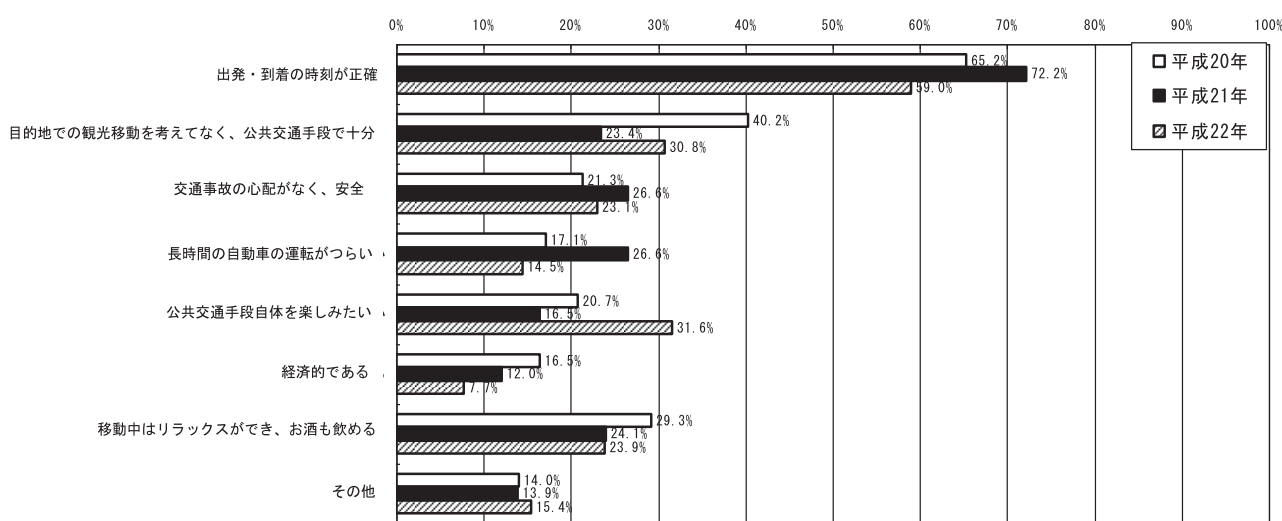


図-7 調査年別公共交通機関利用者の選択理由

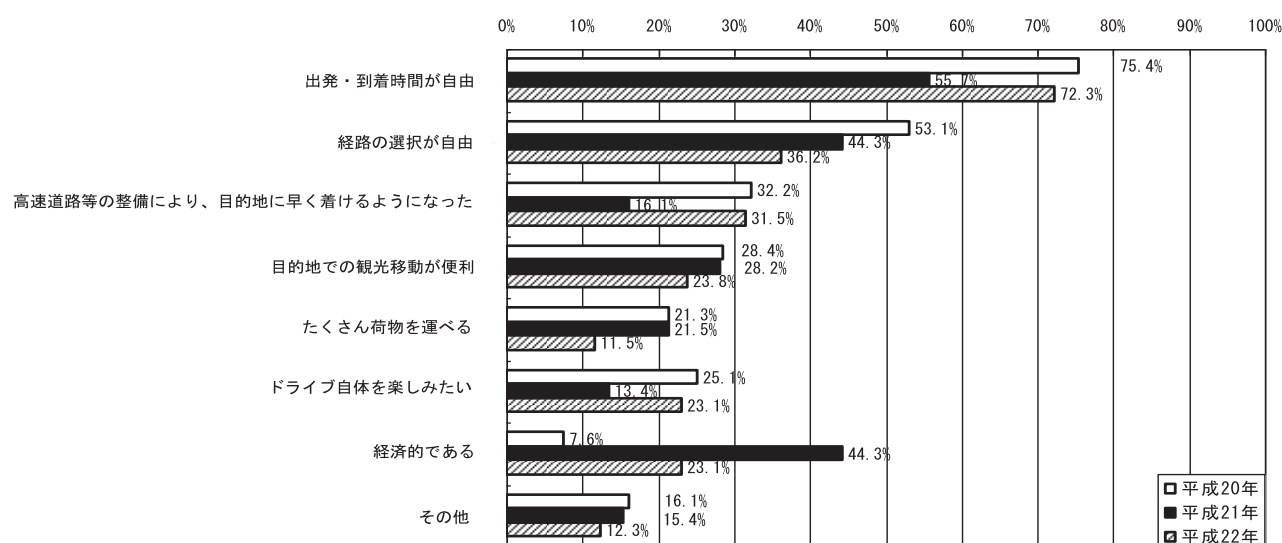
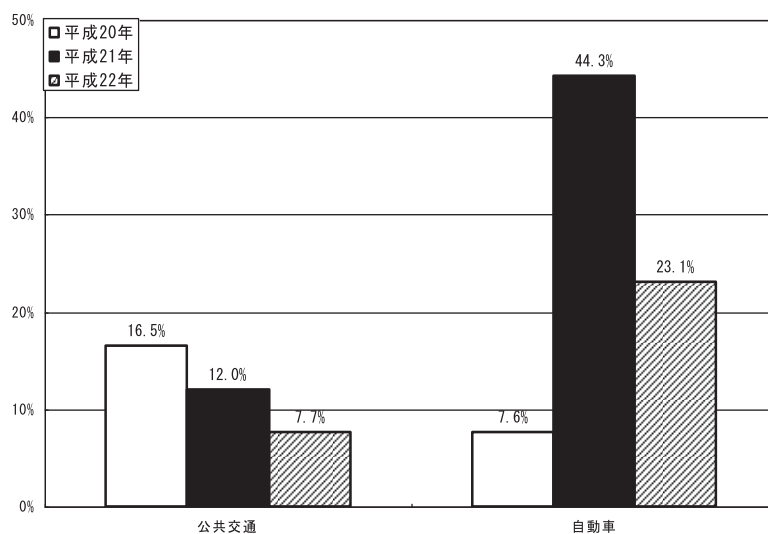


図-8 調査年別自動車利用者の選択理由



図－9 調査年別交通機関選択の理由の『経済的である』比較

#### 4. 観光活性化からみた JR 割引切符の利用実態

##### (1) 全体の割引切符認知度

平成 22 年における全体の割引切符の認知度を示したものが表－5 である。割引切符のことを『知っていた』、『知らなかった』を示しているものが上段である。これをみると、『知らなかった』という割合が高くなっている。次に、『知っていた』と回答した観光客が、割引切符を『利用した』、『利用していない』を示しているものが中段である。これをみると、『利用していない』という割合が高くなっている。このことから、割引切符の存在自体は知っているが、あまり利用していないことが分かる。下段は、『利用した』と回答した観光客が利用した割引切符の種類で、『レール&奥飛騨バスコース』と『レール&タクシーコース』の 2 種類である。

##### (2) 割引切符認知度の年齢別比較

平成 22 年の割引切符認知度の年齢比較したものが図－10 である。10～30 代を若年層、40～50 代を中年層、60～70 代以上を高年層とした。どの年齢層も割引切符があることを『知らなかった』という割合が高いことが分かる。特に、中年層、高年層よりも若年層に知られていないことが分かる。

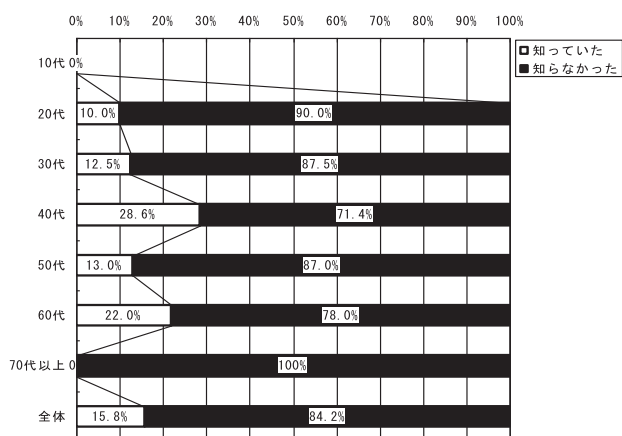
##### (3) 割引切符認知度の居住地別比較

平成 22 年の割引切符認知度の居住地比較したものが図－11 である。全体的にみても、『中国・四国』、『九州・沖縄』など遠方の居住者の認知度が低いことが分かる。また、割引切符に関係のある『東海・北陸』、『岐阜県内』居住者の認知度に注目すると、『岐阜県内』居住者の認知度の割合が特に低くなっている。このことにより、飛騨高山を全国に PR しなければならない『岐阜県内』居住者の認知度の低さが明らかになった。

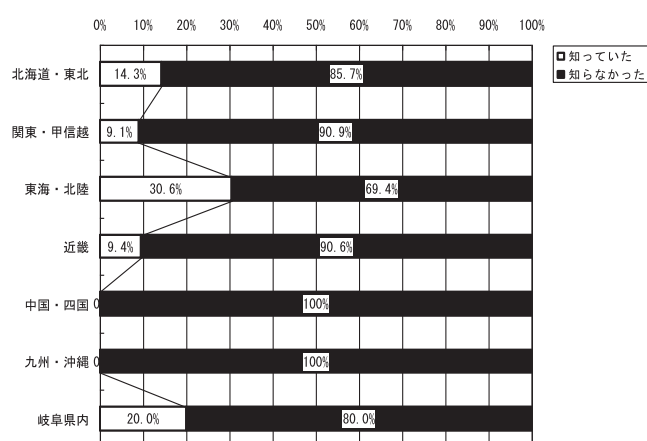
表－5 平成 22 年の割引切符の認知度

知っていた	知らなかった	計
19	96	115
16.5%	83.5%	100%
利用した	利用していない	計
5	12	17
29.4%	70.6%	100%
レール & 奥飛騨バス	レール & タクシー	計
4	1	5
80.0%	20.0%	100%

注) 不明を除いて集計



図－10 平成 22 年の割引切符の年齢別比較



図－11 平成 22 年の割引切符の居住地別比較

## 5. まとめ

本研究では、飛騨高山に來訪している観光客を対象に調査を行った。その結果、以下のようなことが分かった。

### (1) 観光行動の変容について

1) 公共交通機関利用者は、平成 22 年では『JR のみ』の割合が減少して、『JR とその他』の割合が増加している。また、『JR と高速バス』の割合が急激に減少している。

自動車利用者は、3 ヶ年とも自家用車で來訪している。

2) 公共交通機関利用者では、『飛騨古川』、『白川郷』の 2 つの観光地が年々減少している。しかし、自動車利用者では、あまり変化がみられなかった。

3) 交通機関選択の理由では、公共交通機関と自動車の長所である項目はあまり変化していない。また、『経済的である』の項目の変化は、東海北陸自動車道の開通が大きく影響している。

### (2) 割引切符認知度について

1) 全体的に割引切符認知度の割合は、低いままである。特に、年齢層では 10～30 代の若年層で、居住地では『岐阜県内』居住者の割引切符の認知度が低い。



## 6. 考察

観光行動の変容については、公共交通機関利用観光客は、遠方である『関東・甲信越』から訪れている観光客が減少しており、近隣『東海・北陸』、『近畿』から訪れている観光客が増加している。そして、旅行全日程はあまり変化していなかったが、高山での滞在時間が短くなっている。また、交通機関選択の理由の1つである『経済的である』の割合も年々減少してきている。自動車利用観光客は、『東海・北陸』から訪れている観光客が3ヶ年とも高い割合である。また、交通機関選択の理由のひとつである『経済的である』も高い割合となっている。このことから、観光旅行は『遠隔地』から『近場』に、『長時間』から『短時間』に変化してきていることが分かった。また、『近場』、『短時間』の2つから『高価』から『安価』になってきていることも当然考えられる。

次に、高山市における観光活性化に向けての方策については、割引切符の認知度が低いことに問題の1つがあると考ええる。岐阜県内居住者の認知度の低さが明らかになったことから、今後認知されていない理由を考え、地域を通してのPRや、鉄道会社やバス会社などの連携強化をしていく必要があると考えられる。

## 参考文献

- 1) 吉田貴利・片柳澄明・和田章仁：飛騨高山における公共交通機関利用観光客の意識実態，土木学会第64回年次学術講演概要集，CD-ROM，第IV部門，IV-120，2009
- 2) 吉田貴利・片柳澄明・和田章仁：飛騨高山における鉄道利用観光客の行動特性，土木学会第65回年次学術講演概要集，CD-ROM，第IV部門，IV-088，2010
- 3) 上松清治・片柳澄明・和田章仁：高山における自動車利用観光客の交通手段に関する考察，日本ホスピタリティ・マネジメント学会第18回全国大会，p 48～49，2009
- 4) 上松清治・片柳澄明・和田章仁：観光旅行における交通手段—自家用自動車と観光バスの比較を通して—，日本ホスピタリティ・マネジメント学会第19回全国大会，p 20～21，2010

(平成23年3月31日受理)